

登録コード:MH138300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	母性看護学実習【20M以降】 Practice in Maternal Nursing			
担当教員	中込 さと子 芳賀 亜紀子・徳武 千足・鮫島 敦子・佐藤 優香			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻3年生 後期(集中) 集中・不定期			
単位数、講義室	2単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		母子、及び親子関係の諸理論を学び、親になる人の全人的理解に即したケアを考究する。	
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		妊娠期から分娩期、産褥期にある女性のbio-psycho-socialの視点からWell-beingの評価、ならびニーズ評価に基づき看護を提供する基礎的能力を習得する。胎児・新生児のWell-being評価を行い、出生直後から早期新生児期のケアマネジメントを行う基礎的能力を習得する。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		妊産褥期の女性と新生児の健康課題を明らかにし看護実践を通して課題解決する。	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		周産期医療および地域母子保健システムに関連する多職種協働を学ぶ。	
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護			
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		妊娠期から分娩期、産褥期にある女性のbio-psycho-socialの視点からWell-beingの評価、ならびニーズ評価に基づき看護を提供する基礎的能力を習得する。胎児・新生児のWell-being評価を行い、出生直後から早期新生児期のケアマネジメントを行う基礎的能力を習得する。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		産科医療、生殖医療、周産期医療、母子保健政策において、生命創造、宗教や文化慣習、社会構造、ダイバーシティの視点から、自然科学と社会科学の両アプローチを用い、看護実践課題を明確にし、取り組むための基礎的能力を習得する。	
	問題解決力 保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。		産科医療、生殖医療、周産期医療、母子保健政策において、医学・看護学に加え、社会科学・公共政策・法律や福祉の視点から多角的に評価・分析し、固有の人や地域社会に対する新たな方略を設計する基礎的能力を習得する。	
	対人関係形成・協働力 保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、看護専門職者として協働的に役割を担うことができる。		母性看護の対象となる、妊産褥婦と新生児との適切な関係を形成し、対話とコミュニケーションを図る能力を習得する。	
	プロフェッショナリズム 看護専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。		生命の創造に関わる高い倫理観を責務・行動規範について、日本国憲法をはじめとした国内法と、国際人権宣言ならびに世界保健機構をはじめとした国際標準の規範を統合し、看護師としての省察的・自律的行動をする基礎的能力を獲得する。	
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	周産期領域での看護では、カウンセリング理論、教授学習過程、危機理論、ソーシャルサポートとストレス、母子相互作用理論、家族発達理論、家族システム理論などを応用し、看護過程を展開します。また、個別の事例に即し、先を見越した臨床判断と看護介入（教育を含む）を実施します。 本実習では「基礎看護学」で学んだ原理原則と、「母性看護学概論」、「母性看護方法論」、「母性看護健康論」で学んだ知識と技術を、日々のケアにどのように応用し、自分が看護の専門家としてどのように関わるのかを実践を通して深めます。 さらに4年次以降の助産師コース、保健師コースの助産学と公衆衛生看護学（母子保健）の基盤となります。 本実習は、担当教員の周産期医療における助産師・産科医としての実務経験を活かして指導します。			
授業計画	1. 妊婦健診に通院する妊婦と入院中の妊産褥婦と新生児を受け持つ。 2. 受持ち妊産婦との対話では、相手のニーズや希望の一致を確認することをめざしたコンコーダンススキルを用いて進める。 3. 入院中の事例についてケーススタディを行い、発表する。 4. ケーススタディした事例を取り上げて看護場面のロールプレイを行う。 5. 母子分離し集中ケアを要する新生児の看護（NICU/GCU）の見学実習を行う。 6. カンファレンス、臨床講義を通して、学びを共有し理解を深める場とする。授業アンケートを行う。			
授業の進め方	月曜日は、実習オリエンテーション、OSCE、妊婦への看護技術演習をします。それをクリアした学生が火曜日以降の実習に進みます。2グループに分かれて母性実習A/Bを2週間にわたって取り組みます。			

授業の進め方	母性実習A OSCE、母子（褥婦と新生児）の看護、ケーススタディ発表、ロールプレイ 母性実習B 産婦または入院妊婦の看護、妊婦健康診査を受ける妊婦の見学実習（半日）、NICU/GCUの見学実習 実習期間中にカンファレンスと臨床講義を予定しています。
テキスト，教材，参考書	ナーシング・グラフィカ 母性看護学 母性看護の実践、小林康江・中込さと子・荒木奈緒編、メディカ出版． ナーシング・グラフィカ 母性看護学 母性看護技術、荒木奈緒・中込さと子・小林康江著、メディカ出版． 教材 ナーシング・グラフィカDVD 母性看護技術、藤本紗央里・大平光子著、メディカ出版． 日本看護協会 看護者の倫理綱領
成績評価の方法	実習前に基本的な知識ならびに技術と判断方法に関してOSCEを行います。これに合格しない場合、実習には出られないことがあります。 予習・復習（10点）、学習課題の達成状況（80点）、受持ち事例への看護実践、カンファレンス参加状況（10点）とし、以下の内容で評価します。 予習・復習態度（10点） 学習課題の達成度（80点） 受持ち事例の看護実践（50点）：アセスメント・計画、実行、評価・事例の要約 看護技術到達度（30点）：安全・正確さ、倫理的配慮、安楽、アセスメントと評価、コミュニケーション カンファレンス参加状況（10点）：テーマの要点の把握、積極性、建設的意見
成績評価の基準	実習では、（１）受持ち事例のアセスメントと課題の設定が適切であり、（２）課題の背景を説明できており、（３）受持ち事例へのケア計画、実施、評価が適切であり、（４）自分の見解を提示できており、教員を感心させるレベルにあれば卓越している、とし、以下の４つの項目で評価する。 総合得点が、90点以上を秀、80～89点以上を優、70～79点以上を良、60～69点以上を可とする。
事前事後学習の内容	本授業の単位取得には90時間の学習が必要です。 実習では、OSCEにあたって看護技術の事前学習と復習を行ってください。 母性看護学関連の授業資料は、特に産褥・新生児に関する基本的知識の復習をしましょう。 担当する褥婦・新生児の看護計画、実施、評価を行います。 毎日、次の日の行動目標・計画を立案しながら予習をしてください。 実習要項にある実習目標が達成できたか毎日自己評価表を用いて評価すること。 以上のことを行い、母性看護の臨床能力を向上させていきます。事前事後学習には毎日3時間以上の学修が必要ででしょう。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	１．教員が学生の毎日の実習ノートに書いたコメントには必ず答えてください。母性看護学実習がテンポが速いので、ケースが決まったら翌日担当するまでにアセスメントを行い、計画を立ててくるようにしましょう。 ２．自己の健康管理に留意してください。感染症が疑われる場合は、実習を中止する場合があります。 ３．心身の体調のこと、学習方法など、実習期間中に戸惑うこともあると思います。気軽に教員に相談してください。どの教員に相談してもよいです。連絡時間は随時対応します。 中込（snakagomi@信大）、芳賀（akihaga@信大）、徳武（ctokuta@信大）、鮫島（atsuzuki@信大）、佐藤（yksato@信大）